



慶應義塾大学ビジネス・スクール

太陽産業株式会社

—— 社内電子掲示板の導入 ——

5

2001年9月の導入から4ヶ月が経過した。しかし社内電子掲示板への書き込みはまだ100件ほどでしかなかった。そもそもグループ会社を含め全社員に開かれた電子掲示板であることを考えると、もっと多くの書き込みがあってよいはずなのに、という思いが宮代純の気持ちを複雑にしていた。

10

盛り上がらない電子掲示板

宮代は業務用素材の事業を行なう太陽産業株式会社に勤務していた。総合企画部広報グループの一員として社内外に対する広報業務を担当していたが、半年前から、全社員を対象とする社内電子掲示板の導入の企画・推進プロジェクトを社長の特命業務として担当していた。

15

社長から指示をうけた時、宮代の心には「将来も働き続けたいと思える会社にしたい。社員全員がそう考え、自らの手でそれを実現していくきっかけとなるような電子掲示板を作りたい」という高まる思いがあった。しかし導入して4ヶ月たった今、「電子掲示板への書き込み数がまだまだ少ない。“盛り上がり”に欠けているような気がする。」これが電子掲示板に対する現時点での宮代の率直な評価であった。

20

太陽産業では5年前に社内のパソコン普及率が100%に達し、ほぼ全員がインターネットと電子メールを使いこなしていた。また2年前には社内ポータルサイト（すべてが集結されている一種のホームページ）を稼働させ、全社員への伝達事項や各種届出書類に関する事務、部門別情報などをイントラネット上に集約させていた。宮代が導入した社内電子掲示板はこのようなIT活用状況での機能の追加でもあった。

25

太陽産業株式会社

太陽産業は1960年に設立された会社で、従業員数は約1500名であった。他にグループ

30

このケースはクラス討議の資料とするために慶應義塾大学ビジネススクール教授高木晴夫とMBA2002年卒生長谷川伸也が作成した。社名および個人名は偽装されている。

© 2002 慶應義塾大学ビジネススクール